

「北東アジアにおける安全保障上の課題に関する日米露三極有識者会合」

2012年6月21日

日本国際問題研究所

1. 6月19日～20日にかけて、モスクワにおいて、ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所（IMEMO）、米国の戦略国際問題研究所（CSIS）及び日本国際問題研究所（JIIA）の共催により、「北東アジアにおける安全保障上の課題に関する日米露三極有識者会合」が開催された。この会議は、2010年以来、三国間の「トラック2」（民間）対話として行われているものであり、第1回は2010年3月ワシントンにて、第2回は2011年1月に東京にて開催され、今回（第3回）は最終回に当たり、政策提言を含む共同ステートメントを発出した。
2. 今後は、政策提言で提案されるとおり、日米露の政府関係者の正式な参加も得た、「トラック1.5」対話の来年の開催を目指す。「トラック1.5」対話では、政策提言の更なる具体化に向けた議論を行う。
3. 共同ステートメント・政策提言（英文、日本語訳添付）のポイントは、以下のとおり。
 - （1）中国の影響力と国力の増大は、北東アジアの戦略環境において最も重要な展開であり、機会でもあり挑戦。中国の軍事力の増強と自己主張の強い行動が深刻な影響を引き起こしうる一方、中国の封じ込め政策は不適切で非生産的。中国との包括的な協力を強める努力を払うと同時に、ヘッジも必要。
 - （2）北朝鮮の政治・軍事情勢の展開は、北東アジアの安全保障にとって最も喫緊の課題。北朝鮮の肯定的かつ具体的な措置が朝鮮半島における緊張を和らげるために必要である。一方、不確実性を踏まえ、日米露三国は、調整された対応について予め協議する必要。
 - （3）コントロールされない軍備増強や意図しないエスカレーションを防ぐための二国間及び多国間の協議に、中国を関与させる努力を払うべき。二国間の防衛当局間のホットラインや、日米露三国間の戦略・防衛対話と演習が、更なる検討に値する。
 - （4）エネルギーの安全保障は、アジア太平洋地域の戦略環境において重要な

課題。供給の安定のためには、二国間ベースの事業の限界を克服し、多国間の協力の展開が重要。東シベリアと極東における天然ガスの埋蔵は、ロシアが新たな天然ガス生産・供給拠点を開発することを可能にしている。

(5) 北東アジアおよびアジア・太平洋地域は、多くの非伝統的な安全保障上の課題に直面。特に海洋安全保障の問題について、三国間で取り組むべきことが多い。国連海洋法条約に成文化された海洋法の重要性を再確認し、航行の自由とシーレーンの安全の重要性を強調。日米露は、海賊、大量破壊兵器の拡散防止等の共通の課題に協力して取り組む努力を強化する必要。日米露三国は、地震等の災害対策や救助活動においても重要な役割を果たす。サイバー・セキュリティの問題も、日米露三国で取り上げるべし。

(6) 日米同盟、韓米同盟などの二国間同盟が平和と安定の維持に極めて重要な役割を果たす一方で、これを補完し、信頼醸成・協力を推進するため、EAS、ARF、ADMM プラスといった現存の多国間枠組を発展させていくことが重要。米国とロシアの EAS 参加は、この観点から前向きな動き。ウラジオストク APEC に向けた日米露の緊密な調整を歓迎。

(7) 日米露は、領土問題を含め立場の違いが存在する一方で、広範な利益と協力分野を共有。今後のフォローアップの対象として、以下の協力分野を特定。

(ア) 地域の枠組みの強化 (特に EAS)

(イ) 海洋安全保障

(ウ) エネルギー安全保障 (北極地域の探査・開発を含む)

(エ) サイバー・セキュリティ

(オ) 北朝鮮問題

(カ) 不拡散問題 (途上国の能力と法制度強化のための支援を含む)

(キ) ロシア極東及び東シベリアの経済開発 (投資環境整備を含む)

(ク) 自然災害時における人道支援 (担当当局間でのオペレーション上の協力強化等)

(ケ) 海洋生物の持続可能性

(以上)